



魅力ある「福岡の麦」づくり運動

1. 播種前契約麦の作付励行
2. 種子更新100%
3. 土壌診断に基づく「土づくり」の実践
4. 適期適量播種
5. 麦踏み・土入れ・除草・排水対策の励行
6. 追肥・穂揃期追肥の実施
7. 赤かび病防除の徹底

月	11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
生育相	播種期			分けつ期									幼穂形成期			出穂期			登熟期間			成熟期	
時期別作業	<ul style="list-style-type: none"> ○弾丸暗渠 ○二度すぎによる深耕 ○土壌改良材の施用 ○種子消毒の徹底 ○基肥の施用 ○除草剤の散布(播種直後) 			<ul style="list-style-type: none"> ○麦踏み(3回以上) ○土入れ(3回以上) ○ハーモニーDF ○バサグラン液剤 ○排水溝の設置 ○1回目追肥 									<ul style="list-style-type: none"> ○MCPソーダ塩 ○排水溝の整備・点検 ○黄斑病防除 			<ul style="list-style-type: none"> ○穂揃期追肥 ○赤かび病防除(1回目) ○赤かび病防除(2回目) ○赤かび病防除(7~10日後) ○赤かび病防除(2回目) 			<ul style="list-style-type: none"> ○適期刈取り(水分25%以下) 				

1. 土づくり

土づくりを実施して麦の収量・品質向上を目指しましょう。

- (1) 適正なpH(6以上)を維持するために、ミネラルG又は珪鉄を10a当り200kg施用する。また土壌の酸性が強い場合は、10a当り炭酸苦土石灰200kgを目安として施用する。
- (2) 稲わらすき込み及び大地めくみちゃん(1t/10a当り)の施用
- (3) 深耕(作土深15cm目標)

2. 排水対策

湿害を受けやすいので停滞水を生じないように①有材暗渠、②弾丸暗渠(基準2m間隔)、③畦立て及び排水溝の整備により排水対策を徹底する。

3. 適期・適量播種

異品種混入や種子伝染性の病害を防ぐため、毎年種子は100%更新する。

播種適期	11月15日~20日	
播種量	ドリル播き 7kg/10a	※厚播きは倒伏の原因になる。 ※大豆後作は播種量を減らす。
播種深度	2-3cm	※大豆後作は深播きに注意する。

4. 種子消毒

(種子10kg当り)

薬剤名及び使用料	対象病害虫
ベンレートTコート 50g (劇)アドマイヤー水和剤 15g	黒穂病類 ヤギシロトビムシ

※小麦のヤギシロトビムシ多発生ほ場の対策(種子10kg当り)
クレーザーFS30 60mlを塗沫処理し乾燥後、ベンレートTコート 50gを種子粉衣する。

5. 施肥基準(穂揃期追肥は必須)

(10a当り)

施肥体系	基肥	追肥		追肥		穂揃期追肥	
		1回目(1月中下旬)	2回目(2月下旬)			(出穂7~10日後)	
A	ちくごのめぐみ 444	硬質小麦専用追肥3004 (30-0-4)	30kg	なし		硫安	15kg
B	(14-14-14)	NK化成2号 (16-0-16)	30kg	NK化成2号 (16-0-16)	10kg	硫安	25kg

※大豆作あとの基肥量は、基準より約5割減とする。又、追肥は生育に応じて加減する。

穂揃期追肥を葉面散布する場合 (10a当り)

施肥体系	施肥量	追肥時期
A	尿素 3.5kg/100ℓ	出穂7日後と14日後頃の2回
B	尿素 5.4kg/100ℓ	(赤かび病防除と同時に)

●品質基準が設定され、①タンパク質含有率②灰分③フォーリングナンバー④容積重の基準を下回ると生産・品質に基づく支払い単価が変わります。そのため栽培管理として追肥の徹底と基本技術の励行が重要です。

6. 除草剤使用基準

(1) 初期除草剤

除草剤名	処理方法(10a当り)			対象雑草
	使用量	希釈水量	散布時期	
リベレーターフロアブル	60mℓ~80mℓ	100ℓ	播種後~麦3葉期	初期に発生する一年生雑草
ムギレンジャー乳剤	300mℓ~600mℓ		播種後出芽前	
リベレーターG	4~5kg	-	播種後~麦2葉期	

※リベレーターフロアブル及びリベレーターGの使用により麦の葉身に白化や黄化等が見られる場合がありますが、その後出てくる葉には認められず回復します。

(2) 中期除草剤

除草剤名	処理方法(10a当り)			対象雑草
	使用量	希釈水量	散布時期	
ハーモニーDF	5~10g	100ℓ	播種後~節間伸長前	一年生広葉雑草及びスズメノテッポウ5葉期まで
バサグラン液剤	100mℓ~200mℓ	70~100ℓ	生育期(但し、小麦は収穫45日前まで)	一年生広葉雑草・キンポウゲ類及びアメリカカワウロに効果が高い
MCPソーダ塩	200g~300g	70~100ℓ	幼穂形成期(3月上中旬)但し、収穫45日前まで	一年生及び多年草広葉雑草・カラスノエンドウに効果が高い

7. 黄斑病防除基準

対象病害	薬剤名・使用量(10a当り)	使用回数	使用時期
黄斑病	チルト乳剤25 1000倍(水100ℓに100mℓ)	3回以内	出穂14日前~出穂1日前

*黄斑病が多発すると減収します。

8. 赤かび病防除基準

散布時期	薬剤名・使用量(10a当り)	使用回数	使用時期
1回目 開花期(出穂後7~10日)	ミラビスフロアブル 2000倍(水100ℓに50mℓ)	2回以内	収穫前7日まで
	トップジンM粉剤DL 4kg		出穂期以降2回以内 収穫前14日まで
2回目 (1回目防除の7~10日後)	トップジンM水和剤 1000倍(水100ℓに100mℓ)	2回以内	出穂期以降2回以内
	トップジンM粉剤DL 4kg		出穂期以降2回以内 収穫前14日まで

※ちくしW2号は、赤かび病に弱いので、2回防除を徹底する。2回目防除は、1回目防除の7~10日後に行う。

9. 収穫

品質確保と作業の効率化を図るため、穀粒水分が25%以下となった時に収穫する。

品種特性表

品種名	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 m ² 当り	栽培上の留意点
ちくしW2号	4/5	5/29	84	9.2	482	赤かび病に弱いので2回防除を徹底する。高タンパク質含有率確保のため穂揃期追肥を実施する。

※栽培履歴(管理日誌)はご記入の上、提出してください。

●農薬の安全・適正使用、飛散防止の徹底!

※農薬の登録内容は随時変更されます。農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

※農薬の散布時は、風向きに注意し、農薬が周辺作物へ飛散しないように注意しましょう。